

平成 21 年 6 月 23 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520518

研究課題名（和文） 近代日本における開港都市と国際交流

研究課題名（英文） Basic study on foreigner's communities in port cities and international exchange of modern Japan

研究代表者

大西 比呂志 (ONISHI HIROSHI)

フェリス女学院大学・国際交流学部・教授

研究者番号：70201978

研究成果の概要：

近代日本の開港都市として中心的な地位を占めた横浜の、主に居留地制度撤廃以後の外国人社会の形成とそこにみられたさまざまな国際交流の態様について、在住外国人に関する統計資料の収集と分析、関係する各種ディレクトリーをもとに在住外国人名簿の作成、関係外国都市での行政文書などの資料収集、関係者へのインタビューによるオーラルヒストリーの作成、個人文書の収集などを行った。それらをもとに在住外国人に関するデータベースを構築し、またオーラルヒストリーのテキスト原稿、収集資料の目録などを作成した。またこれら資料に基づいて研究代表者、研究分担者による著書、論文を発表した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,400,000円	0円	1,400,000円
2007年度	1,300,000円	390,000円	1,690,000円
2008年度	700,000円	210,000円	910,000円
年度			
年度			
総計	3,400,000円	600,000円	4,000,000円

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本史

キーワード：①日本近代史 ②国際交流学部 ③外国人 ④開港場 ⑤都市史

1. 研究開始当初の背景

グローバル化が進み、日常生活の

中で外国人との接触が高まる今日、都市内部の外交人社会がどのように歴史的に形成さ

れてきたかは、重要な現代的意義を持っている。しかし近代日本における都市内に形成された外国人社会の研究は、幕末に設定され1899年に転配された居留地時代に集中しており、現代へ直接つながる、その後の時代についてはむしろ手薄であった。またその後の時代については、在日外国人として多数を占めた中国人や朝鮮人に研究が傾いていたといえる。そうした近代日本の外国人社会の研究状況を踏まえて、本研究では、開港都市という国際都市、なかでも最大規模であった横浜を事例の中心として、主に20世紀以降の欧米系の外国人社会の動向について、資料収集と基礎的研究を行うこととした。

2. 研究の目的

本研究では、開港都市の外国人社会に関する基礎データを構築することを第1の課題とした。このうち数量的統計データは都市の国際化を客観的に測るもので、新たな都市イメージを提供するものであり、都市史研究の新たな視角となると思われる。また人物個別データの構築は、従来知られていなかった様々な国際交流の具体的な事実の発掘につながる基礎資料の整備に貢献するものである。これらがデータベースとして完成し公開されることとなれば、近代国際交流史研究の基礎資料として研究者や各都市の行政関係者にとって有用であるだけでなく、関係都市の資料館などで一般利用者が地域に密着した国際交流を学習する際にも有益なツールとなるだろう。本研究における第2の課題である個別テーマの関係資料の収集と分析は、そうした地域からの国際交流に関する一定の解説的役割を担うことにもなると思われる。現代において国際交流に対する歴史的認識が学界だけでなく、広く行政や国民にとつ

て以前にまして重要になっていることは改めて論じるまでもないが、そうした国民的認識の形成のためには、国家的観点ではなく地域に即し、また抽象的理想的ではなく個別具体的な、例えば地域に発生した特定の事件や人物の事実の即して、その歴史的な展開を跡づけることが必要であろう。本研究では開港都市を素材とした基礎データと資料の整備によって、近代日本における国際交流について、国民が身近な観点から認識を深めていくことを目的とした。

3. 研究の方法

まず各都市の在住欧米人および観光客などの寄留外国人の国籍、人口、男女別、職業別、在住地域別の構成など数量的なデータを各都市の統計資料（『神奈川県統計書』『横浜市統計書』『神戸市統計書』『函館市統計書』『東京市統計書』ほか）、入出国記録（「旧記録（明治・大正期）」、「新記録（昭和戦前期）」外務省外交史料館所蔵資料など）から抽出して分析し、そのストックとフローの基本構造と歴史的な動態を客観的に明らかにした。これらの基礎的データの構築はこれまで十分に整備されていないものであり、本研究では第1の課題を、この基本的なデータベースの構築に置いた。

次に、各都市に在住した主要な外国人に関して、名鑑、興信録、ディレクトリー（Japan Directory, The Japan Weekly Mail (1872-1910) The Kobe Chronicle, The Japan Advertiser など）から職業、経歴、資産など人物情報を集積し、人物情報データベースを構築した。これらは、名鑑類に記載された外国人という点で限界があるが、地域の有力な外国人を網羅することは可能であり、地域と外国人社会に関する基礎的データである。

こうした作業の成果を活用しつつ、本研究ではさらに、各都市での外国人社会と日本社会との関わりについて、主にアメリカの公立（州、市などの）公文書館（シアトル市公文書館、ワシントン州公文書館）や大学の文書室（ラトガース大学）での資料調査を行い、関係資料を収集した。

また、在住外国人の関係者（ヴィクター・ヒギンス氏、ウィリアム・マール氏、フランツ・メツガー氏、大谷英代アンデルレ氏など）について、インタビューを行い、証言や回想を記録し、あわせて関係資料（写真アルバム、手記、文書類など）を収集し目録化も行った（W.L.ヒギンス文書）。

4. 研究成果

(1) 収集資料

本研究において、横浜、神戸、函館在住の外国人とその国際交流活動に関して、以下のような資料を収集した（主なもののみ）。

① 北海道立文書館：

「函館奉行所文書」中の「各国書翰留」・「各国官吏文通録」

「外国人へ地所貸渡其他規則関係書類」

「外国人ニ関スル件」簿書 115～116

「外国人ニ関スル件」簿書 366～367

「外国人ニ関スル件」簿書 526～529

「外国人ニ関スル件」簿書 820～822

「外国人ニ関スル件」簿書 2301

「外国人ニ関スル件」簿書 3641

「居留人々名記」簿書 1103

② 国立国会図書館所蔵関係資料の調査、収集

『神戸市統計書』明治 40～昭和 63 年度

『兵庫県統計書』明治 6～昭和 38 年度

② 外務省外交史料館

「外務省記録」のうち、「大正七年四月 神奈川県 敵国人並敵国人ト看做サルベキ者調査表」（『外国人ノ身分並挙動取調一件 別冊神奈川県庁調査敵国人名簿』、「外国人関係諸団体調」1925 年 12 月末調査／同 1928 年 12 月末調査／「外国人又ハ外国人関係団体調」神奈川県 1937 年 12 月末現在（「在本邦諸団体調査関係雑件」第 1 巻）

④ イギリス外交文書中の関東大震災罹災横浜在住外国人の神戸避難関係文書 英外交文書

FO 908 / 6、7、F0908 / 6 Embassy and Consular Archives: Japan: Yokohama : Earthquake reports, 1923

F0908 / 7

Embassy and Consular Archives: Japan: Yokohama: Earthquake relief and lists of survivors, Yokohama. Foreign Relief Committee, 1923-1924.

⑤ 横浜市史資料室

「昭和期市内警察署資料」より外事関係『横浜市事務報告書』各年

⑥ 横浜開港資料館蔵「横浜商工会議所旧蔵文庫」より、戦前の国内居住外国人の経済活動に関する調査資料

『外人の見た日本の横顔』 1935 年

『観光の日本と将来』 1931 年

『神奈川県外人招致委員会要録』第 3 輯 1930 年

『横浜市会社名鑑』 1926 年・1932 年

『神奈川県観光連合会要録』 1930 年代各年

⑦ 早稲田大学中央図書館等所蔵関係資料

『外事警察概況』 / 内務省警保局 昭和 10 年

『外事警察報』第24, 26, 28, 29号
『特高外事月報』 / 内務省警保局保安課
昭和10～昭和17年4月

(2) データベース

近代の開港都市における外港人社会の構造
と個別事例の発掘を目指したが、前者の成果
としてデータベース「横浜在住外国人リスト
1863～1900」(3305人、5379件)を作成した。

(3) オーラルヒストリーの作成

ウィリアム・F・マール氏
フランツ・メッツガー氏
グリフィス・ウェイ氏
ヴィクター・ヒギンス氏
大谷ヒデヨ Enderle 氏
久米宏・多賀子夫妻
今井清一氏

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

[雑誌論文] (計3件)

① 天川晃 「国境を越えて生きる」『市民と社
会を生きるために』(無) 2009 (59-74)

② 大西比呂志 「マール一家と横浜」『フェリ
ス女学院大学資料室紀要 あゆみ』(査読・
無) 第61号 2008 (pp19-28)

③ 本宮一男 「昭和初期における国際親善策の
一側面—シアトルの石灯籠と碑文を手がかり
に—」『外交史料館報』(有) 第22号 2008
(81-90)

[図書] (計1件)

① 大西比呂志 『横浜をめぐる7つの物語 地
域からみる歴史と世界』(フェリス女学院大
学、2007年) (pp206)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大西 比呂志 (ONISHI HIROSHI)
フェリス女学院大学・国際交流学部・教授
研究者番号: 70201978

(2) 研究分担者

天川 晃 (AMAKAWA AKIRA)
放送大学・教養学部・教授
研究者番号: 10009813
(2006～2007年)

本宮 一男 (MOTOMIYA KAZUO)
横浜市立大学・国際総合科学研究科・教授
研究者番号: 40230049
(2006～2007年)

(3) 連携研究者

天川 晃 (AMAKAWA AKIRA)
放送大学・教養学部・教授
研究者番号: 10009813
(2008年)

本宮 一男 (MOTOMIYA KAZUO)
横浜市立大学・国際総合科学研究科・教授
研究者番号: 40230049
(2008年)